



院長 錫村 明生

偕行会城西病院は 15年目を迎えました



当院の前身は1936年開院の名古屋市立城西病院です。2011年4月に偕行会が名古屋市より譲渡を受け、次の年に新病院が完成し、今の形態で病院業務を開始しました。譲渡に際して名古屋市からは、長年市民病院が果たしてきた地域住民に対するケアを十分に引き継ぐようにとされています。そのため当院は、地域に根ざした住民ファーストの病院で、なおかつ既存のクリニックとは差別化を図るような専門性の高い病院を目指して発足しました。

当初は内科、人工透析内科、整形外科でスタートし、4年後から眼科、神経内科が加わり、外来5科、病棟は地域包括ケア病棟(60床)、療養病棟(60床)の体制でした。高齢者の多い地域性を考え、私が院長に就任した2017年からは糖尿病内科、物忘れ外来を新設しました。さらに、睡眠時無呼吸外来、循環器内科も順次追加して、現在は9科で診療を行っています。偕行会の強みである透析医療も充実し、常時140名を超える患者様の血液透析が行われています。また、2022年5月からは名古屋大学腎臓内科と連携して長時間透析も行っています。

2024年12月には名古屋市認知症疾患医療センターに指定され、前名大教授及び准教授、前名市大教授(副学長)、現藤田医大教授、現名大老年科医員など大学病院にも引けをとらないメンバーをそろえ、週4日の外来体制で月に30名ほどの新患の物忘れ検診とその治療を行っています。薬物治療以外にも、音楽療法や運動療法なども毎週行っています。

偕行会城西病院は紹介状が無くても受診できます

紹介状なしで受診しても、通常の医療費にプラスして選定療養費をご請求しておりません

受診当日に検査結果をお知らせします

血液検査は院内にて分析しており、当日実施した検査の結果を可能な限りその日のうちに説明します
※一部の専門的な検査を除く

外来診察時に入院が必要と判断された場合、当院での入院も可能です

入院病床が120床あり、内科系全般・整形外科系疾患、眼科(白内障手術)の入院加療が可能です
※病状により専門の医療機関をご紹介する場合があります

地域の方々が頼れる病院をめざして発展させていきます
今後ともよろしく願いいたします

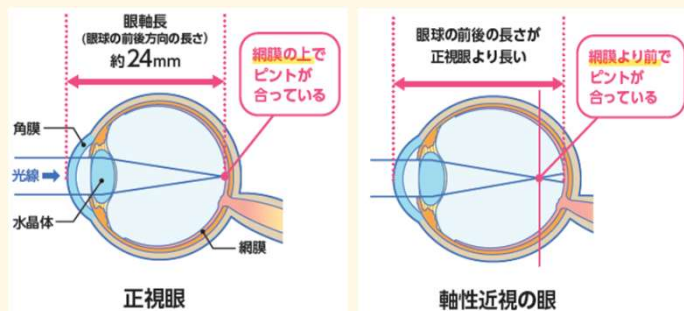




子供の近視抑制治療はじめました！

? 近視とは？

眼球が前後に伸びてピントが網膜に合わず、物や文字がぼやけることです。眼球は体の成長期に伸びることが多く、低年齢の頃にはやく伸びる可能性があります。



? 近視が増える理由

小児の近視は増加しており、小学生の約4割、高校生の約7割は裸眼視力が1.0未満と報告されています。主な原因に外遊びの減少やスマホ・タブレットの普及により近くを見る時間の増加が考えられます。

? 近視になると…

軽度であっても将来、緑内障や網膜剥離、近視性黄斑症など、眼鏡をかけても視力が出ないような病気になる可能性が高くなります。

! 予防法

太陽光に含まれる光に進行予防にはたらく光があることが分かっているため、屋外で遊ぶ時間を増やしましょう。

スマホや本など30cm目から離しましょう。30分見たら20秒以上目を休ませるなどして近くを見続けないようにしましょう。

! 治療方法

近視進行抑制治療の目薬である「リジュセアミニ点眼液」を取り扱っています。1日1回の点眼で進行抑制効果が確認されており、6月より薬剤費以外は保険適用(選定療養)となる予定なので、より治療を受けやすくなります。

お子様やお孫様の近視が進む前に
治療を検討してみたいかがでしょうか？
お気軽にお問合せください。

